

平成27年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

(1) 協議会名称

平成27年度都立府中工業高等学校 学校運営連絡協議会

(2) 事務局の構成

教務主幹、進路指導主任、生活指導主幹、経営企画室長 計4名

(3) 内部委員の構成

校長、副校長、経営企画室長、教務主幹、進路指導主任、生活指導主幹
計6名

(4) 協議委員の構成

民間会社代表取締役、職業能力開発協会部長、府中市生涯学習課長補佐、地域代表、府中市立府中第二中学校長、PTA会長、府中消防署白糸台出張所長 保護司 計8名

2 平成27年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 協議会

第1回 平成27年6月26日(金) 16時00分～17時30分

本校校長室、内部委員6名、協議委員7名

協議委員委嘱、委員紹介、学校経営計画、本校の現状と課題等説明、防災教育について
評価委員の選出、意見交換

第2回 平成26年11月27日(金) 16時00分～17時30分

本校校長室、内部委員6名、協議委員5名

教育活動に関する報告、2学期の防災教育の報告、協議委員からの教育活動に対する意見、
学校評価の内容検討、協議

第3回 平成27年2月12日(金) 16時00分～17時30分

本校校長室、内部委員6名、協議委員6名

教育活動に関する報告、資格取得状況、防災教育について、学校評価の報告及び学校運
営に関する提言、協議

(2) 評価委員会

第1回 平成27年11月27日(金) 15時40分～16時00分

本校校長室、内部委員2名、協議委員2名

学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察

今年度の学校評価の実施に向けた検討、学校評価の観点・項目、内容の検討

第2回 平成27年2月12日(金) 15時30分～16時00分

本校校長室、内部委員1名、協議委員2名

アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理、評価報告書(原案)の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価(学校評価報告)

(1) 学校評価の観点

「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

実施対象 全校生徒 対象：472人 回収：471人 回収率：99.8% (12月実施)

保護者全員 対象：472人 回収：395人 回収率：83.7% (12月実施)

教職員 対象：58人 回収：57人 回収率：98.3% (12月実施)

(3) 主な評価項目

- ・学校運営、学習活動、生活指導、進路指導など
- ・マークシートを活用したデータ集計

(4) 評価結果の概要 (学校及び校長への意見・提言内容)

学校について全般的な評価を求めた設問については、生徒・保護者・教職員ともに肯定的な回答の割合が高かった。全体的に評価が高く、校内の指導体制の安定感の現れと考えられる。

今後、少数ではあるが否定的な回答について対応を検討していく必要があると考える。

<全般的な評価を求めた設問における肯定的な回答率>

設 問	生徒	保護者	教職員
	H22→H23→H24→H25→H26→H27	H22→H23→H24→H25→H26→H27	H22→H23→H24→H25→H26→H27
学校に楽しく通っている	71%→77%→84%→84%→84%→80%	92%→93%→92%→93%→92%→92%	90%→92%→100%→94%→98%→93%
本校に入学して良かった	74%→75%→81%→84%→85%→79%	98%→97%→96%→97%→96%→95%	94%→93%→98%→98%→98%→93%
教育目標はわかりやすく示されている	64%→75%→77%→82%→73%→73%	91%→96%→93%→92%→86%→89%	92%→92%→91%→81%→91%→88%

(5) 評価結果の分析・考察（学校及び校長への意見・提言）

- ・本校の教育は全体的に、生徒・保護者・教職員にも支持されている。これまでの教育方針、教育活動の特色を堅持し、さらに発展させていくことが求められる。
- ・「ものづくり人材育成プログラム指定校」として資格取得に力を入れてきているが、資格取得が定着してきている。生徒や保護者の資格取得に対する学校の取組みに対して評価が高い。特に、旋盤技能検定及び電気工事士の取得者は都立高校ではトップクラスを維持している。現状に満足することなく、さらに資格取得に力を入れ、特色ある学校づくりを目指していく。
- ・授業の分かりやすさについて、習熟度別授業や少人数制授業を多く取り入れているため、普通科、工業科に限らず分かりやすく工夫されているという回答が多かった。但し、20%強の生徒が授業の工夫が実感できていないと感じている。生徒にとって分かる、分かりやすい授業をさらに推し進めたい。
- ・家庭での1日あたりの学習時間については、「していない」または「30分以下」という生徒が85%を超えている。進路実現に向け家庭学習の習慣を身につけさせる指導が必要であると思われる。
- ・体罰やいじめに関して生徒・保護者は肯定的な回答が多いが、30%くらいの生徒・保護者は改善が必要と考えている。少数意見に対し耳を傾け、全ての生徒・保護者に信頼される学校づくりを進めていく必要がある。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・昨年に引き続き、防災教育関係の話題を協議の中に入れたことで、協議委員の方たちから防災教育に関する意見を聞くことができた。高校生として地域の方々にどのような形で貢献できるのかを検討していきたい。宿泊防災訓練において地域住人の方と共同でできないか模索していく。
- ・「ものづくり人材育成プログラム指定校」として指定を受け、資格取得について重点的に指導してきたこと、本年度の第二種電気工事士は31名、第一種電気工事士は12名。旋盤技能検定3級は16名、2級は1名の合格者であったことを説明し、学校としての資格取得の取組みについて協議委員の方から高い評価を受けた。
- ・保護司の方より、府中市における若者の状況について情報交換を行うことができた。
- ・2学年においてインターンシップを実施。81名の生徒が企業就労体験を行った事を説明。今後、府中市内での企業開拓を行っていきたいと報告。
- ・今年度の本校の取組み（技能スタンダード推進校、資格取得など）について説明でき、外部（特に地元の中学校）に本校の良さアピールできた。
- ・学校評価・自己評価を通して、学校の課題を明確にし、学校経営計画に反映している。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・あいさつなど生徒の基本的なコミュニケーション能力の育成の重要性が確認された。
- ・最近の若者について、特にSNSに関するコミュニケーションについての課題があることの共通理解が持てた。

- ・ボランティア活動を積極的に実施していることについて高い評価を得られた。その反面、ボランティア活動に集中しすぎて、通行人等への配慮が不足しているという指摘があった。改善に向けた生徒指導を進めることを確認した。
- ・生徒の態度等の資格取得については、生徒への意欲の喚起と放課後や休業日の指導体制の充実が重要課題である。また、技能スタンダードの実施に伴い、全員の生徒を対象にした資格取得の指導体制を確立していきたい。
- ・部活動推進指定校として、部活動の果たす役割、健全育成など、部活動の重要性が確認された。多くの生徒が部活動に関わり、また基礎体力向上に向けた取り組みの充実を図る必要がある。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

- ・ 生徒・保護者・地域への学校の教育方針や教育活動の周知。
- ・ 家庭との連絡体制の充実
- ・ ICT環境の充実。

(2) 学習指導

- ・ ものづくり教育の実践。資格取得の奨励。
- ・ 本校の生徒一人ひとりに応じた授業。
- ・ 基礎学力の向上。
- ・ 進路実現に向け家庭学習の促進。

(3) 特別活動

- ・ 部活動の活性化。基礎体力向上。
- ・ 近隣小・中学校との連携と奉仕活動の推進・充実。

(4) 生活指導

- ・ 基本的生活習慣の確立、ルール・マナーなどの規律の徹底。

(5) 進路指導

- ・ キャリア教育の実践と進路指導の充実。面接等における生徒の表現力の育成。
- ・ 生徒、保護者の要望に応えられるよう、より一層な情報提供。

(6) 健康・安全

- ・ 災害安全、生活安全、交通安全などの安全教育の充実。
- ・ いじめ防止、体罰根絶に向けた取り組みの充実。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 8名

(2) 「学校がよくなった」と答えた協議委員の人数

そう思う	多少 そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう 思わない	わからない	無回答
4	3					1

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

- ・ 今年度の職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加はなかった。